

「阿蘇大橋建設現場、長陽大橋炭素繊維巻立て工法見学」

- 1 日程 : 平成30年7月2日(月) 13:30~16:00
- 2 場所 : 国土交通省阿蘇復興事務所、阿蘇大橋建設現場、長陽大橋炭素繊維巻立て工法現場
- 3 主催 : (一社)雇用環境整備協会
- 4 参加 : 土木科2年生 39名
- 5 学習内容

雇用環境整備協会の支援を受けて、国土交通省の現場で阿蘇大橋建設現場、長陽大橋の橋脚の炭素繊維巻立て工事の見学を行った。見学に先立ち、阿蘇復興事務所で熊本地震に関する阿蘇の復興の過程を写真を交えて、詳しく説明していただいた。熊本地震では、阿蘇地方の被害は大きく、死者も出て、シンボルであった立野の阿蘇大橋が落ちるなど、たいへんな被害を受けた。県道熊本高森線では、桑鶴大橋、大切畑大橋で橋梁の上部工にずれが生じ、国道57号線では路肩が崩壊し、通行できなくなってしまう被害が出ている。また、それ以外でも、国道325号、県道28号線、村道栃の木～立野線が大きな損傷を受けた。熊本市と阿蘇市、南阿蘇村と高森町をつなぐ、主要道路が分断され、ミルクロード、グリーンロードのみとなった。直轄代行(国が県・市町村道を代行して災害復旧する)により、早期復旧を要請され、国土交通省が中心となって復旧・復興に取り組むこととなった。県道28号線に関しては、2年かかる工事をわずか8ヶ月で完成させ、工期を70%も短縮する速度で共用にこじつけている。その中には、俵山トンネル、俵山大橋などトンネル・橋梁も含まれており、県内外からの設計・施工業者の協力により、24時間現場を稼働させるなど、地域のインフラである道路を守るためにかなりの大きな負荷をおって工事が行われた結果、早期開通がなされた。炭素繊維に関しては、鉄筋に比べて軽くて、強度が強いという利点がある。初めて、炭素繊維を見ることができ、たいへん勉強になった。



復興事務所にて熊本地震の対応について



長陽大橋炭素繊維巻立て工法



阿蘇大橋建設現場



2年生集合写真